

工化時報

発行所
東京都千代田区神田
河台1-8
日本大理工学部工業
化学科内 工 化 会
編 集 人
工化会会報編集委員会

題子の「工化時報」は
松本 太郎 先生 筆

工化時報の復刊に際して

情報と協力

工化会々長 池村 紀

日本大学の校友の社会的な力は最近大きく増大しつつあり、マスコミ等でも「日大パワー」などと言うタイトルで表現しているようである。

産業界での工科校友(日大理工学部関係卒業生)の占める重みはますますふえつつあります。昭和十六年の第一回生以来今日まで、工化会の会員は約一万五千になり、化学系産業界で活躍しています。その活動範囲は大変大きな広がりをもっています。

多くの情報を提供できるならば会員の相互の協力関係を強めるのに大きく寄与できるものと信じます。今回のこの校友、学生にこの種の情報を伝達する媒体として『工化時報』が再発行されることになった事はこの意味で実に嬉しい事だ、関係者の方々、こゝまで漕ぎつけた長い間のご努力に敬意を表するものです。

工化会活動のうちで、名簿の刊行がハードな情報活動とすれば、時報の発行はソフトな情報提供といえます。

校友の協力結果の弱い原因は、お互いの間の特権だけでなく、お互いの間を結ぶ力が不足しているからだと考えられます。その一つは情報不足と考えます。各方面で活躍されている校友や学生諸君に、TPOに役立つよう協力をお願い申し上げます。

工化会とは

田村利武

工化会は駿河台・習志野の学舎(日大工化)で、共に通じた仲間達の会です。仲間達の連絡の場、啓蒙と日大工化の発展に貢献することを目的に組織された会です。従って、卒業生は勿論全員の卒業生や教職員も全日本工化会のメンバーであるわけです。工化会は、我々の学舎が駿河台の地にできた昭和十三年頃、在学生の会として発足したもので、昭和三十三年に今日の姿に発展的に改組され、現在に至っています。

日大工化の発展と共に、卒業生の数も二万五〇〇〇人に達する迄になり、在学生と教職員を加えれば、工化会会員数二万六〇〇〇を超える大きな組織に発展したわけです。

研究室訪問

油化学研究室 松本太郎教授

研究室には四人の院生と十三人が終わるのを待つ、すぐ品川の貸ヨットで遊ぶのだと楽し気に語られました。三年生のときからかなり勉強されたそうです。現在の学生については、「あきらめが早く変化が切り切つて、しかも」先生を悲しませてはいけません。これからの学生へは「環境のち

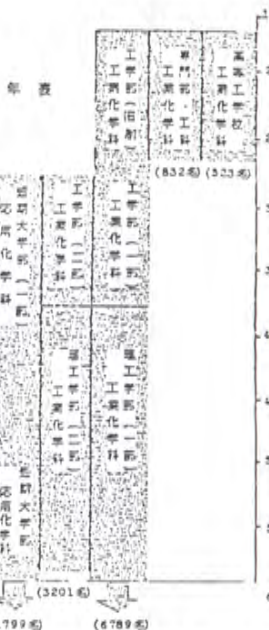
心をとらえたお言葉。もつと問題意識を持って鋭さを身に付けなさいと、この叱咤激励の意図が感じられました。今後ともお体に気をつけて、一層のご活躍をお祈りいたします。

工化時報の思い出

永島一男

前回は工化時報を発行したのは、昭和十四年頃のことだと思ふ。当時は日大紛争の真只中。未だ解決の糸口も見えていなかった頃のことです。

私もまだ学生で、紛争の高潮で戸惑っていたひとりでしたが、紛争の行方については先輩方からいろいろと御心配を頂いていました。それは一度工化時報で紛争特集号を出そうということになり、あまり準備も出来ないまま、ガリ版刷りで間に合わせの発行をしたものです。学生も含めた何人かの方にお願ひして、それぞれの立場から考えを述べて頂いただけの簡単なものでありましたが、それでも紛争中曲がりなりにも発行できたことは幸いだったようです。



工化会は、駿河台・習志野キャンパスの各系卒業生全員の会である。工化会独自の工業化学部会でもあり、工化会独自の会報『工化時報』と『工化会報』を刊行している。また、主なものとして掲げます。

- ① 工化会会報の作成と頒布(昭和十三年・三十四年・三十五年・三十六年・三十七年・三十八年・三十九年・四十年・四十一年・四十二年・以上発行済)
- ② 工化会会報の作成と頒布(昭和十四年・十五年・十六年・十七年・十八年・十九年・二十年・二十一年・二十二年・二十三年・二十四年・二十五年・二十六年・二十七年・二十八年・二十九年・三十年・三十一・三十二年・三十三年・三十四年・三十五年・三十六年・三十七年・三十八年・三十九年・四十年・四十一年・四十二年・以上発行済)
- ③ 工科校友会会報(後)の発行。
- ④ 卒業生全員の会報(後)の発行。
- ⑤ 在学生のスポーツ大会への補助(毎年五十万円)。
- ⑥ 在学生の学費補助(大江戸祭に毎年五十万円、習志野祭に毎年五十万円)。
- ⑦ 在学生の学費補助(毎年一〇〇万円、昭和五十九年より実施予定)。

工化時報の役割は、卒業生に学内の近況を知らせると同時に、在学生会に工化会の存在を知ってもらう効果も大きいと思います。工化会の更なる活動の為に、今後にも期待します。

加化成工業(株)
石山利男
昨年の十一月五日、新宿京王プラザにて、昭和四十四年に卒業して以来初のクラス会を開いた。

第三回太平洋化学工業会議
田中 和典
小島和夫
橋本勝己
伊藤俊博
伊藤俊博
伊藤俊博

工化化学科の第一期生である。松本太郎先生の研究室をお訪ねしました。専門が油化学である松本先生の研究室は入口より入ったところが実験室となっており数多くの分析機器が置かれていた。その奥に先生の机やソファが置かれていた。われわれ記者の訪問に先生はこころよく迎えて下さり約二時一時間留まりました。研究は、植物のステロール成分に他研究室には四人の院生と十三人分である。ステロール人の四年生がいる。



油化学研究室 松本太郎教授

先生は若いときから幅広い趣味を持って遊んだのだと楽し気に語られました。三年生のときからかなり勉強されたそうです。現在の学生については、「あきらめが早く変化が切り切つて、しかも」先生を悲しませてはいけません。これからの学生へは「環境のち

工化時報の思い出
永島一男
前回は工化時報を発行したのは、昭和十四年頃のことだと思ふ。当時は日大紛争の真只中。未だ解決の糸口も見えていなかった頃のことです。

「問」黒から打出し、四三勝
ちにしてください。

10分で5級程度

「ヒント」黒石2で勝とうとするのは危険です。
八段 坂田昌典出題
(昭二十七年卒)

- 海外出張
- ※米国スタンフォード大学に留学 56・8・57・8
 - ※クエーンズランド大学交換教授 56・2・56・4
 - ※第七回国際化学工業会議 56・9 (アラバ)
 - ※第三回太平洋化学工業会議 56・5 (ソウル)
 - ※エネルギー資源の開発利用及び安全工学に関する事情調査 57・2 (米 国)
 - ※アヘン及び欧州の化学工場視察 58・6 (欧州)
 - ※フランスにおける触媒研究についての調査 58・3 (フランス)
 - ※アルガリヤの化学工場建設に 57・9 (アルガリヤ)
 - ※東南アジアの化学工場視察 57・10 (マニラ、シンガポール)
 - ※元教授 橋本正夫
 - ※南アラバマ州立大学に留学 56・7・56・9
 - ※オタワ大学に留学 58・2・58・9
 - ※国際石油会議 58・3 (シンガポール)
 - ※生産工学部 教授 菊池光子
 - ※テネシー州立大学 56・7・56・9 教授 藤原一吉
 - ※テキサス州立大学 57・7・57 教授 佐々木保之
 - ※スイス連邦工科大学 58・1・58・3 教授 杉山邦夫
 - ※「ヒント」黒石2で勝とうとするのは危険です。
八段 坂田昌典出題
(昭二十七年卒)



市川良正先生の近況

市川良正先生の近況

本学名誉教授である市川良正先生は昨年二月十日で米寿の御寿をお迎えになられました。

嶺川範行先生の近況

本学理工学部元教授で東工大名誉教授の嶺川範行先生は、五十四年から読売東京理工専門学校校長として、また読売東京理工専門学校校長も兼任されて、お忙しい日々を送っておられますが、本学には定年後も引き続き非常勤講師として大活躍されています。

新年度の卒研着手者内定

Table with columns: 研究室, 指導教員, 卒研内着数 (男子, 女子, 計).

学生生活

平井菜穂子

理工学部志望校検査は、広大なキャンパスを持ち、閑静な環境の中にあります。

現在の私の生活の大部分は、このキャンパス内で過ごしているのだから、多くのスポーツ施設や、緑の多い環境は、とても好ましく思います。

しかし、このように過ごしやすいときはばかりではなく、冬になりまして、寒風と砂嵐とで、外へ出ると大きな不安を胸をいつぱいにし

社会人となつて

菊地通子

以前から気になっていた事ですが、講義中の教室がちよとにぎやか過ぎやしませんか。特に人口付近と、その後ろあたりが、騒いでいる人はごく一部ですが、その人たちのために多くの人が迷惑を感じています。後ろにだつて真剣に聞いている人だつています。その人たちのことも考えて下さい。

化学には、すばらしい未来がある。二十一世紀の豊かな心地よい人生は、新しい化学と化学工業に期待している。これからの化学はアンビシアスな若者を持つてゐる。

化学教育とアンビシアス

安藤 巨

先日、上野先生より日大に無分野の講義として、「光化学について」話すようにとのこと

を前に話す機会が出来た。これを機会に、私がいままで感じたこと、更に次の世代での大学での教育について少し述べてみた。

まず、二十数年前、日本の化学工業はすばらしい成長を遂げ、化学を専攻したいとする学生が非常に多かつた。現在の情勢は、化学を専攻したいとする学生が非常に少なくなつた。

私には、今日みられるすばらしい多くの技術や研究が、いろいろの失敗や経験のもとに成り立っていることを理解する必要がある。

苦言

速藤 修

以前から気になっていた事ですが、講義中の教室がちよとにぎやか過ぎやしませんか。特に人口付近と、その後ろあたりが、騒いでいる人はごく一部ですが、その人たちのために多くの人が迷惑を感じています。後ろにだつて真剣に聞いている人だつています。その人たちのことも考えて下さい。

世は情報化の時代だそうである。コンピュータ技術と通信技術が密接に結びついた結果、情報もエネルギー以上に有力な資源となるのである。

情報化時代到来に思う

浅野洋司

世は情報化の時代だそうである。コンピュータ技術と通信技術が密接に結びついた結果、情報もエネルギー以上に有力な資源となるのである。

趣味のコーナー

真下 浩

私の趣味は園芸である。数年前までは日本産の石楠花に凝っていたが、どうも気候が合わないせいにかまくいかなくなつた。

趣味のコーナー

私の趣味は園芸である。数年前までは日本産の石楠花に凝っていたが、どうも気候が合わないせいにかまくいかなくなつた。

私の趣味は園芸である。数年前までは日本産の石楠花に凝っていたが、どうも気候が合わないせいにかまくいかなくなつた。

私の趣味は園芸である。数年前までは日本産の石楠花に凝っていたが、どうも気候が合わないせいにかまくいかなくなつた。

私の職場

川井弘子

すみ渡つた青雲、さわやかな秋風が吹いています。丁度いまでは私達の職場の住友金属鉱山(株)・中央研究所の昼休み。野球・テニス・サッカーと、所内のほとんどの方がスポーツで午前中の頭の疲れを癒やしています。

私の職場

計 報

日華化学工業副社長の要職にあつた東田政治さんが、五十七年七月十四日、急性心不全のため死去された。東田さんは松本太郎先生と同じ旧制学部第一回生。

告別式は、七月二十七日、東京芝・増上寺において日華化学社葬をもつて執り行われた。定刻前から参列者開始し会葬の人の波をさしたほど盛大な告別式だつた。

東田さんは、旧制高等工学校、理工学部二部及び生産工学部で外来講師として化学工学を講義されてきた。取組役になつて以後も精力的に後進の教育に情熱をそがれて、現場に精通した先輩講師からみっちり化学工学をたたきこまれた会員諸氏も多いはず。工化会にとつても惜しい先逝をうけた。

合 葬 (東三十三卒 南山 斉)

詰り連珠・解答

「正解」黒1・3の順に打ち、3手目に5のところで四三勝ち。白がイと四ノリをしても、黒は次にロとノリ押さえます。黒1が絶妙手で、以下「説明」黒1が絶妙手で、以下黒勝ちが出ます。たんに黒が3後5や、5後3の順に打つ四三は、それを防ぐ白に四ノリ手が生じて、黒勝ちどころか逆転の白勝ち。黒1手目を2、4、イ、ロなどに打つのも、以下黒は勝てません。

編集後記

再刊にあたり、第一回卒業生の松本先生に宛ててお願ひした。原稿が揃らなかつたことには苦勞した。年一回の発行で紙面は少ないが、学生会員だけでなく、学外から積極的に投稿されることを期待している。二万名の会員に郵送するには六〇万円必要で、資金不足のため現状では各人に送る訳にはいかないが、将来何とか実現できる工化会に発展してほしいものである。



筆者は日本工化三十二年卒。イリノイ工科大学大学院修了、後ブルック・ヘンリッ国立研究所研究員一時帰国し大阪府立放射線中央研究所研究員、後UCLA研究員、さらにプリンストン大学研究員、福田後藤馬大学工学部応用化学科助教授、昭和五十年に筑波大学化学系教授、日本化学会企画部担当理事、環太平洋化学会副役員(一九八四年)